

情報連絡員報告総括表(令和7年11月期)  
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・原材料価格の値上がりが続いている。 ・物価高が消費者の購買行動を弱めている。 ・人手不足である。
	処理牛乳・乳飲料製造業	→	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・全体的には悪化傾向にある。 ・価格転嫁は進んでいるものの、経費増により収益改善には至っていない。 ・衣料関係は苦戦している。自動車関係の産業資材については、米国関税措置による影響を懸念している。
	絹人織織物業	↘	↗	→	→	↘	↘	→	→	↘	・資材関係や石油由来の薬品等の値上がりが続いており、仕入先企業は、毎月順に値上げ通告してくる。 ・得意先には毎年商品の値上げをお願いしているものの、値上げた商品の売上数が減少しているため、収益の確保が困難になっている。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	・組合員企業の廃業により受注が激減し、稼働率が低下している。 ・来年初頭には、受注は回復する見通しである。
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	・新設住宅着工戸数の前年同月比は、43.8%減と大幅な減少となり、中小工務店を中心に厳しい状況にある。全国では増加に転じていることから、富山県は人口減少と高齢化の率が高く、新築住宅の建設から既存住宅のリフォームへとややシフトしているのではと推察される。 ・プレカット工場の稼働率は、住宅着工数の減少に伴い低迷し、人材確保によって各社採算割れにもかかわらず受注し、仕事を確保している状況にある。 ・ロシア材取扱事業者は、住宅着工戸数の減少に加え、外材から国産材利用に転換する動きによって需要が減少し、厳しい状況にある。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷印 刷業	→	→	→	→	↗	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業によって業況に違いはあるが、一部では収益の好転が見られる。しかしながら、全体の景況の好転は感じられない。</li> <li>・官公需取引について、県より少額随意契約(公募型見積競争)の上限額が100万円から160万円に引き上げられるとの発表があり、組合員の優位性が活かされていたボリュームゾーンへ、アウトローや県外企業の参入が可能となるため、組合員の官公需の受注減が予想される。</li> </ul>
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比94.2%と5ヵ月ぶりに前年を下回っている。</li> <li>・4月からの県全体の累積出荷量は、ほぼ前年並みである。</li> </ul>
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	骨材・石工品等製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度骨材価格の値上げについて、取引先に説明を行っている。</li> <li>・令和8年度末に手形や小切手が廃止されることとなり、令和8年度契約書について条項改正の必要があり、検討している。</li> <li>・各取引先と電子決済への移行が進んでいる。</li> <li>・骨材需要は、堅調に推移している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↓	→	→	→	↓	↓	↓	→	↓	・生産量は建設機械、工作機械及び油圧関連部品等、全般的に低調に推移している。 ・先行きに対する不透明感は依然として強く、景況感は悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	↓	→	→	↓	↓	↓	→	→	↓	・地金価格高騰が長期化している。
	アルミニウム製品製造業	↓	→	↑	→	→	→	↓	→	↓	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・組合員企業の操業度、業績に大きな変化はない。
	めっき加工業	↓	→	→	→	↓	→	↓	→	↓	・製造業全体の製造の量が減少しており、めっきを行う製品の依頼(持ち込み)の量も減少しているため、売上は減少している。 ・資材等の高騰も続いているため、収益状況は悪化している。
一般機器	金属工作機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	↓	→	・全体的には業況に変化はないものの、工作機械部門が大幅に減少している。 ・設備の更新や増設の先送り等、設備投資を抑える企業が増えている。
	金属加工機械製造業	↓	↓	→	→	↓	↓	↓	↓	↓	・特になし。
	非金属用金型製造業	↓	↓	→	→	↓	→	↓	↓	↓	・米国関税措置の影響によるものなのか、受注はあるものの納期の先延ばしが多少目立っている。受注残も減少気味である。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↑	↑	↑	→	↑	→	↑	→	→	・最近立ち上げた車載部品の受注が増加してきている。 ・産業機器向けも、少しずつだが需要が増加する兆しが見える。 ・民生品は新製品開発の動きが出てきているが、他国のメーカーとの競争が激しく、ビジネス獲得に至っていないと聞いている。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	↓	→	→	→	→	→	→	→	→	・ふるさと納税の駆け込み寄付による返礼品販売が急増しているものの、売上は昨年に比べて減少している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↑	→	→	→	→	→		→	↘	・11月は天候に恵まれ、山間部での工事が順調に推移したため、前年同月比107.9%となっている。4月～11月の売上累計も前年比104.7%と好調であり、冬季間の売上については天候次第で減少を見込んでいるが、今後、昨年同額で推移すれば前年比を約10,000袋オーバーで着地できると期待している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↑	↘	↘	↘		↑	↘	・受注減に苦しむ組合員企業は多い。 ・分業による各工程(着色、研磨、溶接など)の担い手不足が深刻化している。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	→	→	→	↘	↘		→	↘	・週末のイベントに押されて売上が減少している。 ・輸入肉の価格が上昇し、収益を悪化させている。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	・11月の富山卸売市場は、前年同月比で数量84%、単価104%、売上87%となっている。 ・組合員全体の売上については、前年同月比90%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↘	→	↑	→	↘	→		→	↘	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、SSの経営環境は依然として厳しい。 ・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いている。引き続き、需要の回復感は弱い。 ・ガソリン暫定税率廃止が決定し、引下げ前の高値在庫を売り切るには一定期間要することから、短期間での引下げは経営の打撃となる恐れがあり、需要の大きい年末と重なるため、SS現場の混乱が懸念される。
	スポーツ用品小売業	↘	↑	→	→	↘	↘		→	→	・特になし。
	ショッピングセンター	↑	→	→	↘	↘	→		→	↘	・売上は一見増加しているが、商品価格の値上げ分であり、利益分が増加している訳ではない。 ・最低賃金の状況と消費者の更なる節約志向の強まりにより、小規模店舗はかなり厳しい状況である。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・連休や週末のイベント効果によって、商店街を歩く人が多く見られる。 ・衣料品店では、冬物衣料がまずまずの売れ行きとなっている。
	商店街	↗	→	→	→	↗	→		→	↗	・物販の売上が伸びている。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	→		→	→	↘	↘		→	→	・特になし。
	飲食業	↘		↗	→	↘	→		→	↘	・物価高による節約志向が原因なのか、夜の部の利用が少ない。 ・売上の前年同月比は-5.6%となっている。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・建設資材の高騰、人件費の上昇、人員不足により、工事に大幅な遅れが出ている。また、建設価格の上昇による計画の見直しが見られる。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・11月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で5ヵ月連続の減少となっている。軽自動車については、2ヵ月ぶりに減少に転じており、認証不正問題から回復した自動車メーカーの新型車の販売が2ヵ月連続でプラスとなったものの、経営難によりブランド力低下が指摘される別の自動車メーカーの販売不振が目立つ結果となっている。 ・新車市場は、物価高騰や新車車両価格の値上げ、一部メーカーでは半導体不足による供給制約の影響で、減産を余儀なくされている。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	↘		→	↘	・鉄骨需要量は400万トンを下回るとの予想が多くあり、仕事の確保に翻弄する鉄骨加工業者が見受けられる。 ・鋼材メーカーはコスト高を理由に値上げを打ち出してきており、鋼材特約店も値上げに追従してくると思われる。当業界も同様にコストアップしているため、仕事確保のための安値受注は避けなくてはならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・道路消雪点検業務が始まり、多忙な状況である。 ・各自治体の水道関係の新年度予算について、料金収入が厳しい状況の中で、今年度並みの予算を確保しているが、資材・燃料費・労務単価等の上昇分については予算が上積されないため、発注件数は減るものと危惧している。
	電気工事業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・公共事業、民間設備投資、住宅着工いずれも好調に推移している。 ・銅ベースの高騰や年明けの電材商品の値上げによる資材費の上昇分の転嫁が課題である。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格について、前年同月比-3.3円/ℓとなり、12月からは多少の収益増加が見込まれる。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比で-0.9円/ℓと値下がりしている。 ・物量は、前年同月比103.9%と好調であるが、地域差があるように思われる。